

ドキュメンタリー映画

何を怖れる

What are you afraid of?

フェミニズムを生きた
女たち

個人的なことは、
政治的である

映画上映 + 出演者を交えたトーク会

本作品は、70年代の日本のウーマンリブに始まる40数年の日本のフェミニズムの歴史と、現在も続いているさまざまな女たちの活動を映像で綴るドキュメンタリーです。

70年代初頭に始まったリブ運動からほぼ40年。今や女性をとり巻く環境は大きく変わりました。

この変化には、女がのぞんだ変化も、のぞまなかった変化も、想定外の変化もありました。のぞんだ変化の多くは、女であることを愛し、女たちと共感し、女たちとつながって、それぞれの立場で活躍してきたリブやフェミニズムの女たちの志がもたらした成果でした。

男社会から疎まれても、同性たちの偏見や誤解の目にさらされても、すすんで自らをフェミニストと名のり、目の前に立ちはだかる壁と闘いながら生きてきた女たち。彼女たちのエネルギーッシュな生と活動の軌跡は、同時代を生きる者や後から生まれた者たちに大きな勇気を与えてくれるでしょう。そんな女たちも年齢を重ね、回顧の季節を迎えています。彼女たちが生きてきた歴史と人生の厚みを、まだ間に合ううちに記録に刻み、次の世代に手渡したいと、このほどドキュメンタリー映画の製作を企画いたしました。映像による記録と表現は、多くのひとに豊かなメッセージを届けてくれるであろうと期待して。

フェミニズムを生きた女たちをつくる会

出演者

池田恵理子、井上輝子、上野千鶴子、加納実紀代、桜井陽子、高里鈴代、高橋ますみ、滝石典子、近山恵子、(駒尺喜美)、中西豊子、田中喜美子、田中美津、樋口恵子、米津知子

(あいうえお順・敬称略)



6/27 sat

13:00 ~ 16:30

【ゲスト】井上 輝子さん (和光大学名誉教授/女性学)

【会場】川崎市男女共同参画センター (川崎市高津区溝口2-20-1)

【参加費】500円 (当日徴収/ブックレット付 ジェンダーと男女共同参画 かながわ女性会議発行)

【問合せ先・申込み先】電話・FAX 藤井光子 044-944-7872 小林英子 044-945-7174

【主催】NPO法人かながわ女性会議 / 川崎の男女共同社会をすすめる会

【共催】認定特定非営利活動法人ウィメンズアクションネットワーク WAN 試写会キャンペーン

【後援】川崎市男女共同参画センター (愛称: すくらむ21)

先着 40名

ゲストスピーカー 井上輝子さん



和光大学名誉教授

interviewees-inoueteruko 1942年生まれ。

1973年～2012年3月和光大学教員。1970年代初頭のウーマンリブ運動に参加する中で女性学と出会い、1974年から和光大学で女性学講座を担当。大学以外でも社会教育や、川崎市等の自治体女性行政にかかわってきた。1989年『女性雑誌を解説する一日米メキシコ比較研究』（編著・垣内出版）で日本出版学会賞。2007年から山川菊栄記念会代表。

主な著書：『新・女性学への招待』（有斐閣2011）、「新編 日本のフェミニズム」全12巻（共編）（岩波書店2009～2011）、「岩波女性学事典」（共編2002）

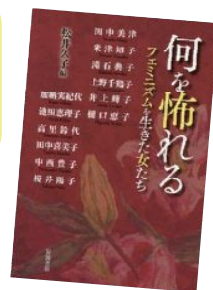


書籍販売会

1970年のウーマン・リブ誕生から40数年。フェミニズムの第一世代として、批判や攻撃をものともせず、最前線を走り続けた田中美津、米津知子、滝石典子、上野千鶴子、井上輝子、樋口恵子、加納実紀代、池田恵理子、高里鈴代、田中喜美子、中西豊子、桜井陽子の12人（映画出演者）が、自らの人生とフェミニズムへの思いを語った貴重な同時代史。映画『何を怖れる』に収めきれなかったインタビューを活字化した1冊を当日も会場で販売いたします。

定価：1,512円（税込）

映画上映会場にて終了後に書籍を販売します。



会場までのアクセス

川崎市男女共同参画センター

※JR南武線「武蔵溝ノ口」駅 徒歩10分

※東急田園都市線・大井町線「溝の口」駅 徒歩10分



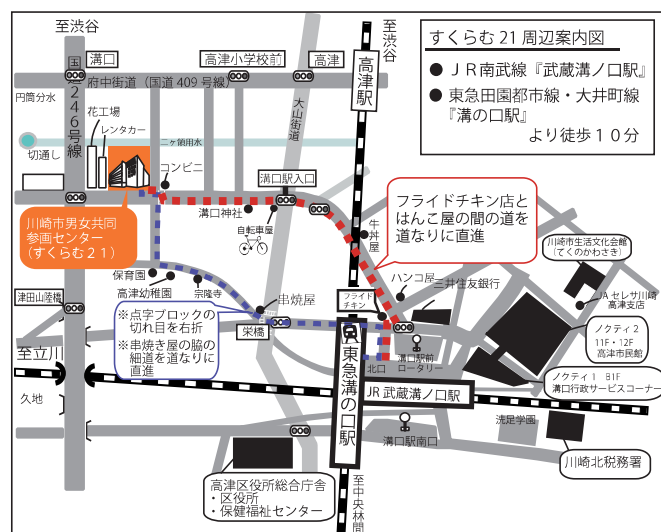
FAX 申し込み先



《お申込者 ご記入欄》

何を怖れる～映画上映＋トーク会（平成27年6/27）

藤井（044-944-7872）もしくは 小林（044-945-7174）宛



氏名	
電話番号	
年代	
居住区	
本映画情報をどこで知りましたか？	



会場連絡先



044-813-0808

（8：30～21：30）